

平成21年度 第6回 真田地域協議会 会議次第

平成21年9月24日(木) 午後7時
真田地域自治センター 301会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 真田地域自治センター長あいさつ

4 会議事項

(1) 交流・文化施設整備について(整備検討委員会からの最終報告に関する報告)

(交流・文化施設建設準備室)

(2) 分科会別協議の状況報告

(3) その他

・分科会別協議

5 その他

第7回開催日(案)について

平成21年10月22日(木)午後7時~

6 閉 会

JT開発地における交流・文化施設のありかた
検討結果報告書

平成21年 8月

交流・文化施設等整備検討委員会

目 次

はじめに	・ ・ ・	1
I 理念と目標	・ ・ ・	2
1 基本理念と目標		
2 文化創造と都市創造		
II 交流・文化施設の整備方針	・ ・ ・	5
1 施設整備の方向性		
2 多目的ホール		
3 美術館		
4 交流施設		
5 市民緑地・広場		
6 施設全体のイメージ		
III 運営・管理の方向性	・ ・ ・	11
1 エリア・マネジメント		
2 施設の運営・管理		
IV 建設にあたって	・ ・ ・	13
1 他施設との役割分担		
2 建設スケジュール		
3 整備事業費と財源		
おわりに	・ ・ ・	14

はじめに

今の子どもたちのために、そして未来の子どもたちのために、今、私たちがしてあげられること…子どもたちの健やかな成長と、豊かな心を育てたい。

文化は、すぐに育つものでなく生活の中で生まれ、脈々と育ってきたものであり、生活そのものでもあります。

私たちが日ごろ楽しみ、心を動かされるなどの恩恵を受けております文化についても、祖先が種を蒔き、水をやり、受け継がれてきたものであります。

こうした文化の継承と新たな創造は、それぞれの世代の使命といえます。

まさに、交流・文化施設の建設につきましては、現代に生きるものだけでなく、将来の子孫のための仕事であるということを意識し、歴史ある上田の文化振興・文化力を高める拠点として、子どもたちのためにも役立てていけるよう前向きに取り組むべきであると考えます。

まちの中心部に文化的機能による賑わいと交流をもたらし、まちを、地域を元気にしたい…文化力から人間力、そして地域力へ。

J T開発地は、「広域から人が集まる新たな拠点として、賑わいの創出や健全な市街地形成を目指し、上田市全体の発展につながる新たな中心市街地の活力づくりの核とする」方針で全体利活用が進められており、市でも「当初から財政状況も踏まえ、民間の資本やノウハウを最大限活用した新しいまちづくりへのアプローチとして、民間との協働により活力ある中心市街地の一角を形成すべきと判断し取組んできた」とお聞きしました。

私たちは、J T開発地の新たな利活用が、上田市の顔でもある中心市街地にもう一度人々を呼び戻し、誰もが集まるような、賑わいや活力を取り戻すチャンスがめぐってきたと捉えます。

隣接地には多くの人々が住む住宅地や、広域から大勢の人が訪れるであろう大型商業施設ができます。ここに「多目的ホール」「美術館」「交流施設」などを一体的に考えた総合的な文化力を持つ交流・文化施設を整備し、J T 開発地全体での一体性、総合性を発揮させる複合的都市計画を目指して、人々や賑わいをこの地区内だけに留まらせず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらすところまで利用すべきであると考えます。

現在、世界規模で経済危機、雇用不安が急速に広がり、明日の生活も不透明な状況にあります。しかしこんな状況だからこそ、公共投資が必要であります。

30年、50年先の明るい未来「文化の薫りが漂い、人々の活気と賑わいに満ち溢れているまち」の実現を目指して、施設整備に取り組むべきと考えます。

I 理念と目標

1 基本理念と目標

『人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ』

の実現を交流・文化施設の基本理念と位置づけ、文化芸術のシンボル拠点として新たな『育成』『鑑賞』『創作』『交流』等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指すことが重要と考えます。

「人にやさしい」とは、多様な価値観を認め合い、分かち合うことで心の豊かさ・やさしさを育てる、まさに教育面や福祉面にも広がる理念として表現しています。

「創造都市」とは、そこで活発な創造活動が行われることにより様々な芸術・文化の醸成や豊かな生活文化が生まれ、新たな産業の振興、環境問題への取り組みなども含め、持続的発展を遂げていく都市像を表しています。

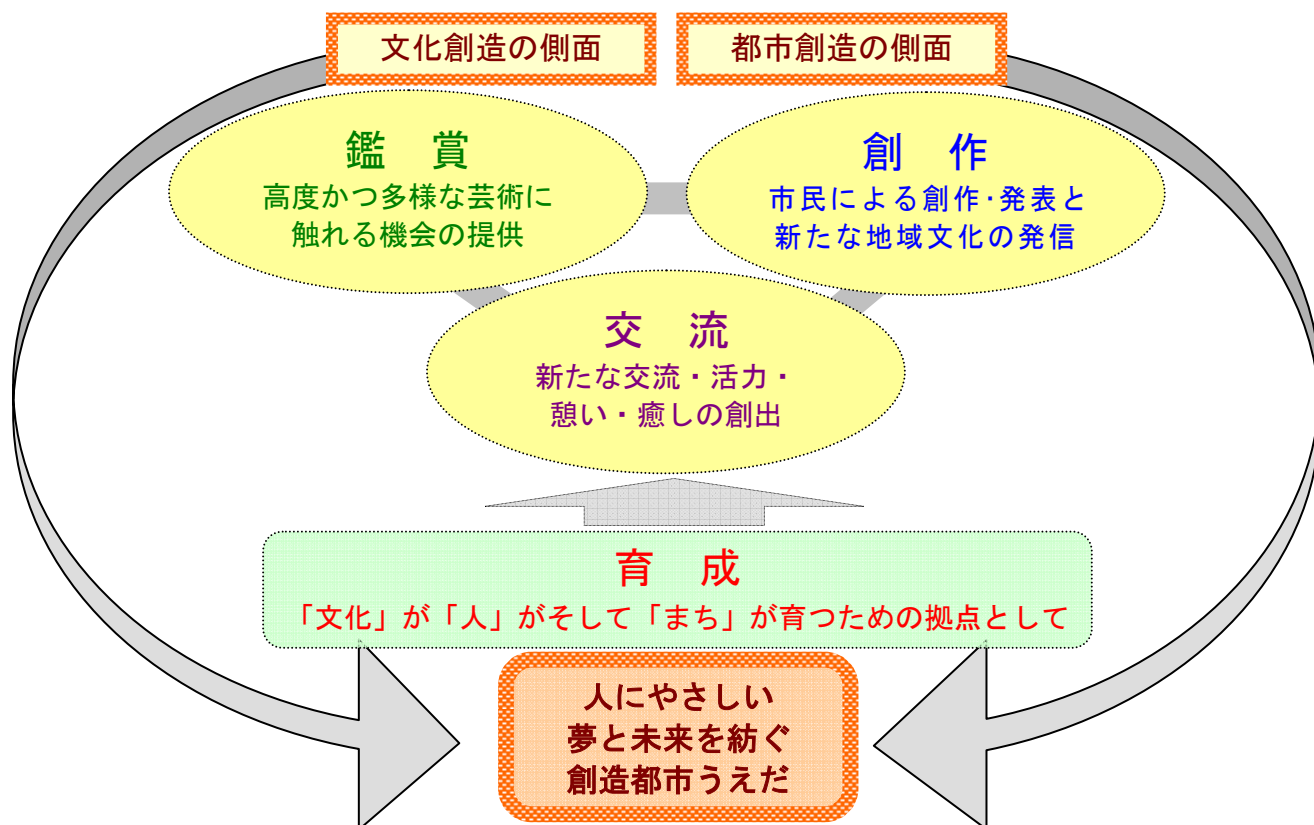
また、基本理念の根底にあるべきものは『育成』であります。

人々の生活とともに悠久の時を経て脈々と流れる「文化」、それが表現された「芸術」、これらが育つことはすなわち「人」が育つということでもあります。とくに次世代を担う子どもたちを、良質な文化的な生活環境の中で心身ともに健やかに育てていく、これは今の私たちが真剣に取り組まなければならないことであると考えます。

そして、「人」が育つということは「まち」が育つことへとつながります。

こうした育成の取り組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成するとともに、まちの賑わいや活力を生み出す拠点として、広範な地域から人々が集い・憩い・交流する場となり、魅力溢れるまちづくりへの架け橋となるものと考えております。

図1 交流・文化施設が果たす役割のイメージ



2 文化創造と都市創造

◎ 育成 ～文化の薫り高く、魅力と風格あるまちづくりに向けた 人づくり～

芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。

さらに、文化的土壌の成熟に努め、芸術に親しむ鑑賞者・創作者としての市民、またそれを支える運営者や活動家を育成することも大切であります。

こうした取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成していくものと考えます。

【主な事業展開の例】

子どもを育てる 文化的環境づくり	未就学児から高校生までが集う演奏会や各種芸術講座、絵画・木彫りのアート教室など、自らが演奏を行ったり作品を制作することを通して、次代を担う子どもたちが芸術や創作に親しむ環境を整える。
各種講座による 鑑賞者の育成	クラシックコンサートなどの公演や質の高い美術作品の鑑賞、また参加・体験型の講座の開催等を通じ、市民の芸術鑑賞に対する意識や文化レベルを熟成し、魅力と風格あるまちづくりに努める。
市民とともにあ る施設づくり	文化活動等はもとより、運営・管理にも多くの市民が積極的にかかわれる環境を整え、市民とともに歩み・育てる施設を目指す。
地域の伝統を生 かした創作活動	地域に息づく文化芸術的土壌や郷土作家の顕彰等を通じ、地域文化の継承と新たな文化の創造に努める。

◎ 鑑賞 ～芸術とのふれあいから感動が生まれ 豊かな心が育まれます～

広く市内外から人々が集い、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、わくわくするような楽しさと感動を提供する施設が望まれています。

いわゆる“本物”の芸術文化とふれあうことで豊かな心が育まれ、毎日の生活に活気と潤いを与え、魅力あるまち実現へと繋がります。

こうしたことから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。

さらには、郷土の著名な芸術家を顕彰し、市内外に向け積極的に上田の魅力としてアピールすることも大切と考えます。

【主な事業展開の例】

自主文化事業	市民が望む様々なジャンルの芸術鑑賞事業の実施。
貸し館事業	興行等民間利用にも積極的に貸出し、市民の鑑賞機会や財政面での収入を増やし、財政負担の軽減を図る。
市民発表の場	市民が行う文化芸術活動の発表・鑑賞の場（晴れの舞台）を提供。
郷土作家の顕彰	山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人等郷土作家の顕彰・鑑賞と、その思想を生かした新たな事業展開。 また貴重な作品を将来に伝えるため作品の保管にも努める。

◎ 創作 ～誰もが・等しく・自由に 感動や喜びを広げる創作体験～

より多くの市民が音楽・美術等様々な文化芸術に親しみ、一人ひとりの生活を豊かなものにしていただけるよう、創作・体験機会の創出、環境づくりに努めるとともに、市民の様々な文化芸術活動を支え、対応できる施設整備が望まれています。

とくに子どもたちや障がいをお持ちの方も、誰もが等しく文化芸術活動に親しみ、表現・発表できるよう、施設・運営両面から積極的に対応する必要があると考えます。

【主な事業展開の例】

誰もが・等しく・自由に、創作活動支援	とくに障がい者や子どもたちが芸術活動に親しむ場・仕組みづくりを進め、地域での芸術を通じた関わりの機会を提供するとともに、芸術と福祉の融合、ひいては市民全般にわたる芸術活動を支援する。
魅力ある企画展や市民体験型事業の開催	郷土作家に関連したテーマ、キーワードを設定した企画展示や現代作家による企画展示等の開催、また展示と併せたワークショップ、各種体験・参加型事業などにより市民の創作意欲や創造性を高める。
全国に広げるコンクール	山本鼎版画大賞展などの全国公募展の開催や、新たな全国規模コンクールの実施により、上田市の文化・風土を発信し、新たな地域振興や観光などと連携した波及効果を広げる。

◎ 交流 ～様々な交流により 新たな出会いと創造が始まります～

市民同士の出会いから市域やジャンルを越えた交流、そして国際的な交流にいたるまで、様々な交流を深めていくなかで、地域文化は育まれます。

このため、外国籍市民を含むすべての市民それぞれがお互いを尊重し、同時に相互に啓発し合いながら、それぞれの活動を高めていくことができる機会と空間を提供する必要があります。

また、交流は、まちづくりや地域活力の面でも重要な要素であります。

観光振興や、コンベンション・イベントなどによる他地域との交流も積極的に図り、まちの賑わいや活力に直接つながるよう取組むべきと考えます。

【主な事業展開の例】

市民の多様な交流の実現	世代・地域・ジャンル等を越えた様々な交流により相互の理解を深め、新たな文化創造や地域づくり、産業振興等に向けた契機にする。
市民憩いの場の創出	広場と合わせ、誰もが気軽に訪れ、楽しみ、憩えるような施設とし、ふれあいや語らいの場など自由な交流機会を広げる。
コンベンションの利用促進	各種会議・大会などのコンベンション利用にも対応することにより、文化面だけでなく、社会・経済面等への波及効果も期待できる。
大学等での芸術活動支援	大学等の芸術活動における利用、発表の機会を提供することなどにより、子どもや市民との交流を促し、地域の文化的土壌を醸成する。
地域の文化芸術振興の拠点	普段訪れることのできない市民への出張公演や出前講座等の活動により、誰にでも心のやすらぎや楽しいひとときの場を提供する。

Ⅱ 交流・文化施設の整備方針

1 施設整備の方向性

整備にあたっての方向性としては、次の5項目を提案します。

- (1) 「歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」実現に向けての中核となる施設
豊かな自然や風土によって育まれる地域文化と、先人の築いた歴史的・文化的遺産を保存・発信する、文化の薫るまちづくりの拠点となる。
- (2) 市民誰もが等しく気軽に利用でき、親しみ、憩える施設
子どもからお年寄り、また、障がい者など、市民誰もが訪れる緑地や広場、また芸術に気軽に触れられる空間を創出し、心が癒され豊かになる。
- (3) 新たな交流や賑わいを創出し、地域の活性化につながる施設
市民間、世代間、地域間での交流はもとより、文化芸術が教育や福祉と連携することで新たな交流や賑わいを創出し、地域全体の活性化につながる。
- (4) 環境、景観、安全等に配慮した、人にも地球にも優しい施設
効率的な資源利用、太陽光発電等による省エネルギー、上田の景観を引き立たせるデザイン、災害時の対応等安全性にも配慮し、人にも地球にも優しい。
- (5) 新上田市、東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなる施設
様々な文化芸術事業と、市民の文化芸術活動支援を行うことで、市民が誇りに思い、愛され、上田市のみならず東信濃地域全域から人々が集まる。

交流・文化施設の整備地区は、『多目的ホール（大・小）』、『美術館』、『交流施設』、『市民緑地・広場』をもって構成されますが、これらを一体的、総合的にとらえ、施設全体を連携させた配置とし、複合的な機能をもたせることが肝要と考えます。これにより相乗効果を生み、全国にも発信できる施設とすることが出来ると考えます。

また、JT 開発地内の大型商業施設などや周辺地区との人の流れ、まちのつながりを総合的に計画していく必要があります。そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、回遊性確保を図っていく必要があります。

そのためには、人々が車から降りて歩いてみたくなるようなまちづくりの設計や誘導策が不可欠であります。快適で安全な歩行空間の整備や、公共交通機関の導入など、今後検討していく必要があります。

こうしたまちを実現するには、周辺地区も含め総合的にとらえ、全体を見通した優れたデザインが鍵となります。地球温暖化を抑止する低炭素社会の実現を見据えた整備と、人にやさしいユニバーサルデザイン^{注)}に基づく設計、シンプルで機能的なデザインを基本としながらも、文化施設には非日常的な空間の演出、ドラマチックな展開や感動を予感させる演出をもたらすデザインも重要であると考えます。誰もが訪れてみたくなる施設となるよう、デザイン面の格別の配慮を実現すべきと考えます。

注) ユニバーサルデザイン…バリアフリー概念の発展形で、デザイン対象を障がい者に限定せず、できるだけ多くの人々に利用可能であるようなデザイン。

2 多目的ホール

(1) 大ホール

大ホールの規模（客席数）については、当初から様々な意見があるなかで、中間報告では1,500席～1,700席程度と集約してまいりました。

しかし、最終報告をまとめるにあたり、この200席の差にはどのような意味があるのか、下記の6つの視点に基づき再検討いたしました。

① 市民鑑賞機会の拡充と質の高い文化の享受にむけて

現上田市民会館の客席数の、旧上田市の人口に対する比率は1.08%であり、市民鑑賞機会の増加を図るためには、現上田市の人口16万人に対し、1,720席は確保する必要があります。

様々なジャンルの芸術鑑賞ができる規模とすると、クラシック、オペラ、ミュージカル等の全国的な公演は、1,800席以上の大ホールで行われる事例が多く、最低でも1,700席程度は必要と考えます。

民間の興行として成り立つ規模とすると、その収支を考えると一般的に最低1,600席は必要とされ、機材等による減席分も見込むと1,700席は欲しいといわれています。（専門委員意見）

② 子どもを育てる文化的環境として必要な規模

市内の子どもたちが各学年ごと一堂に会する施設が求められており、現在の小中学生数を見ると、一学年あたり平均が1,566人で、最も多い学年では1,648人となっているため、1,700席程度は必要といえます。

また、この地域は小・中・高共に吹奏楽が盛んな地域として知られ、多くの子どもたちが吹奏楽に親しんでいます。東信地域の子どもたちが一堂に会してお互いの演奏を聴きあったり、保護者や一般の方が聴きに来ることもできません。東信地域の中学校の吹奏楽部員だけでも1,400名近くいることから、こうした子どもたちのために、1,700席程度のホールを整備することが望まれています。

さらに、少子化が進む中、将来的な見込みとしては、現在（平成20年）の上田市内の出生者数は年間1,417人となっていますが、上小地域全体では1,752人おり、このことから1,700席規模の必要性は十分認められます。

③ コンベンション利用の促進

全県規模のコンベンション・大会等が、長野市（長野県民文化会館、長野市民会館）、松本市（長野県松本文化会館、まつもと市民芸術館）ではともに年間20回程度開催（平成20年度）されているのに比べ、上田市（上田市民会館）は3回程度にとどまっています。

地域の活性化や他地域との交流にもつながる新たなコンベンション利用を見据えた規模を確保していく必要があります。

④ 上田の文化施設の拠点性

長野市、松本市は1,800席を越える大ホールが2施設ずつありますが、現在東信地域には1,500席を越える大ホールはありません。

また、近隣では、佐久市（佐久市総合文化会館）と長野市（新長野市民会館）でそれぞれ1,500席程度の新たなホール整備計画を進めています。

こうした状況を踏まえ、県下の中核都市として、東信濃地域全体の文化芸術活動の中心拠点としての規模・機能を持つ施設とすることが望ましいと考えます。

